

ジョックはクイーンズタウンに住居を構え、アメリカスカッププロジェクトのコンセプトは、やはり「公道を走るF1マシン」の製造である。F1マシンとは地球上でもっとも速い競技専用のレーシングカー。走行できるのは、全世界19箇所のレース専用サーキットだけ。日本なら三重県の鈴鹿サーキットがその舞台だ。レースは1国1箇所が原則であり、F1マシンをドライブすることができるとは選ばれた20数名のトップパイロットたち。わずかコンマ1秒を短縮するためにF1パイロットが受け取るギャラは、年間数十億。ファンタジスタと呼ばれる所以である。F1は、自動車メーカーの技術の粋を集め、メーカーの威信をかけて戦うマシンだ。我々がおいそれと運転できるクルマではない。だが、ジョックは夢を持っていた。我々が日常移動を供にするクルマで、F1マシンの雰囲気味わえないだろうか、と。もちろん公道走行が前提だから、しかるべき安全対策を施し、法規に則ったクルマでなくてはならない。しかしF1のエキサイティングなイメージをクルマに投影することはできるはずだ。クルマの世界も、実は奥が深い。我々が日常を供にするクルマではあり得ないスピードを、条件さえ許すなら、F1並の300km/hの世界を現実にする性能を持ったクルマが存在する。スーパーカーと呼ばれるクルマたちだ。フェラーリ、ランボルギーニ、ポルシェ、そしてアストンマーティン。誰しもが一度は耳にしたことのあるはずの、ヨーロッパブランドたち。スーパーカーは歴史ある欧州自動車メーカーの至宝であり、自動車大国といわ

今、ニュージーランドで初のスーパーカーを造るといふ、耳を疑うようなプロジェクトが進行している。中心人物はジョック・フリーマントル。彼は英国自動車界の名門、ロールス・ロイスでエンジニアとして従事し、その後ニュージーランドに移り住んだ根っからのペトラルヘッドだ。ペトラルヘッドとは、頭の中にオイルが流れているほどクルマに情熱を傾けているという、クルママニアの俗称。ニュージーランドでは、寝ても覚めてもクルマのことばかりを考えている人々を、親愛の情を込めてこう呼んでいるとか。

F1レーサーの気分が味わえるクルマを

**ガンリン頭たちのドリームプロジェクト
ハルムF1チャンピオン1967**

Kiwi Super Car



ニュージーランド生まれのスーパーカー。モータースポーツのDNAが刻み込まれたこのプロジェクトで、一体、世界をあとと言わせることができるのか。

STORY KENICHI SAKURAI
PHOTOGRAPHS EUMEDIA / HULM SUPER CAR

れるアメリカや日本でさえも、このクラスで本格的に認められるクルマを輩出しきれていない。それほどにまでスーパーカーの世界は敷居が高く、ビジネスとして成立しづらい特殊なものだ。しかし、彼はニュージーランド初となるスーパーカーの製造という壮大な夢を現実のものとするために、日夜そのペトラルヘッドをフル回転させている。

国内の一流頭脳が結集し、夢を追う

ジョックの考えるスーパーカーは、世界最高峰の自動車であるF1のイメージを、公道でも味わえるものでなくてはならない。見た人すべてが歓声をあげるようなデザイン、誰もが納得するクルマとしてのクオリティ、そしてモータースポーツのイメージ。この3つを彼は成功するためのファクターだと考えた。現在のニュージーランドには、世界に知られる自動車メーカーこそ存在しないが、モータースポーツの世界とは縁が深く、レーシングドライバーやエンジニアでは世界の頂点を極めた人物を何人も送り出している。

たとえばデニス・ハルム。彼はF1のブラバム・チームのトップドライバーとして活躍し、4度もワールドチャンピオンに輝いているし、現在のF1チームにその名を残すブルース・マクラー



夢を追いかける男、ジョック・フリーマントル

レンも、ニュージーランド人だ。

ジョックの夢の実現のために、一流の頭脳が結集した。近頃トランスポートデザイン学部を設立したマセイ大学のトニー・パーカー教授や、BMWのデザイナーでも知られるチャック・ペリー、国内の有名企業のサポーターも得られた。プロジェクトにはかのブルース・マクラーレンの妹も名を連ねている。

狙いは、フェラーリにも劣らないインパクト

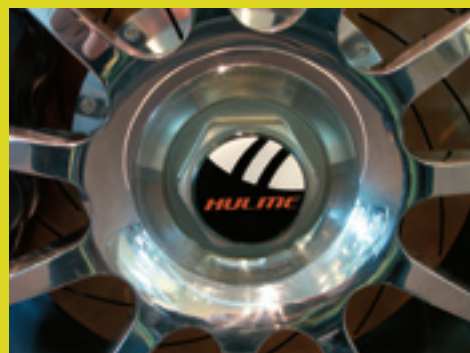
公道で味わえるF1マシンのテイストと、誰もが振り向くようなデザインを、というジョックの希望をベースに、ニュージーランド初のスーパーカーはかつて誰も見たことのなかったような外観が与えられた。これはまさに二人乗りのF1マシンともいえるもので、フェラーリにも劣らないインパクトを得る。そのボディパネルはカーボンケブラーの複合素材で、車体骨格はアルミニウムのパイプを組み合わせた非常に軽量化設計だ。スーパーカーの目指す性能に対し、クルマの軽量化は、なにも優先するべき重要項目だ。最終的な重量は、1175と市販リッターカー並のウエイトしかない。エンジンはBMWの高性能モデル、M5の400馬力V8型8気筒ユニットを搭載予定だというが、現在はさらに新しいM5が登場し、最終決定は流動的。どちらにせよ、現代のトップクラスの性能が与えられることだけは間違いない。スーパーカーは速くなくてはいけないからだ。

ニュージーランドが世界に向けて発進させる夢のスーパーカー、その名称は「ハルムF1チャンピオン1967」。ニュージーランドを代表するF1パイロット、デニス・ハルムが4度目の世界チャンピオンに輝いた年が車名に与えられたこのスーパーカーには、ニュージーランド人のスピードとモータースポーツにかける情熱とペトラルヘッドのDNAが深く刻み込まれる。資金の調達状況によるが、市販開始は2007年の予定だ。公道を走るところを、ぜひ見てみたいものである。

Kiwi Super Car



1. マセイ大学でモックアップを披露。その後、国内のデザイン賞を受賞 2. 誰もをあっと言わせるデザインにこだわり続けた 3. 黒いストライプが二本入ったこのエンブレムは、今は亡きニュージーランド人のF1チャンピオン、デニス・ハルム氏のヘルメットをモチーフしたもの



櫻井健一/さくらいけんいち
スーパーカーやプレミアムカーの最新情報とマニアも納得の分析力で人気の月刊自動車雑誌「ROSSO」(ネコ・パブリッシング刊 www.rosso-mag.com) 編集長。自らも古いランボルギーニを所有するエンthusiast